

(様式1)

教科用図書調査に関する報告書

教科	美術
----	----

発行者 の番号 ・略称	教科書 の記号 ・番号	教科書名	調査結果の概要
9 開隆堂	美術 701 美術 801	美術 1 発見と創造 美術 2・3 探求と継承	<ul style="list-style-type: none"> ・「学習の目標」が3つの観点で示されている。 ・「学習のポイント」、「他教科との関連」(項目のみ)が記載されている。 ・「作者の言葉」の記載のほか、1年 P53「構図をとらえる」には、それぞれの生徒の意図が書かれており、多様なよさを認める意味で評価できる。 ・2. 3年の風景画、自画像などは参考作品も豊富で表現活動に活かしやすい。 ・絵巻物や屏風などの日本の文化や、ルネサンス、ロマン主義、印象派など美術史もよく学べる。 ・ゴッホの自画像やゲルニカなどの有名作品や現代で活躍している画家など、作品が充実している。 ・ポスターや役立つデザイン、伝えるデザインなど生活の中で美術を意識できる内容が豊富。 ・池田学など震災をテーマにした作品や、SDGs など社会に目を向けさせる内容にも触れている。 ・光が感情にもたらす効果など「共通事項」にも配慮されている。 ・生徒の活動(制作・鑑賞・話し合い活動)の補助になるような記載が多くされている。 ・「学びの資料」には多様な技法や、安全に配慮した記載が見られる。 ・生徒の発達段階を考慮した構成になっているが、題材名やテーマが抽象的で考えにくい面もある。 ・1年生にとってはやや難しいと思われる内容や(P8,9,P44)、評価しづらい作例(P37)、授業で使うのは難しいものもある。(2.3年 P113) ・内容が豊富でページの情報量も多い。2. 3年生での系統的な使用には十分な計画が必要である。 ・サイズが変形(A4より大きい) ・P63 色彩の図は、色立体との関係で疑問があるが独自のねらいをもって配置されている。

<p>38 光村</p>	<p>美術 702 美術 802</p>	<p>美術 1 美術 2・3</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・単元の目標は、3つの観点ではなく、表現と鑑賞の観点で掲載されている。 ・1年 P22 では新しい視点の見つけ方が写真によってわかりやすく示されている。 ・発想を広げる方法 (2・3年 P76)、構想の立て方、材料や用具の生かし方などが具体的にいていねいに扱われている。創造的にあらかわすことがしやすい内容になっている。 ・話し合いのテーマまで載っていて授業しやすい。 ・2・3年 P66,P84 など光やあらゆる材料がもたらす効果など「共通事項」にも配慮されている。 ・制作の工程が写真で示されてわかりやすく、「学習を支える資料」に多くのページ (55/183) を使うなど、技法や色彩学習の内容も豊富である。 ・事故防止、安全についての記載もある。 ・浮世絵とゴッホ、ゲルニカなど洋の東西、原始から現代まで幅広い鑑賞教材が掲載されている。 QR コードを活用して制作過程を動画で紹介するなど (2・3年 P20) も興味深い。 ・鑑賞作品には原寸大にこだわったものや、風神雷神図屏風など大きく掲載されているものもある。 ・椅子、コップなど暮らしの中や、公共施設など社会の中で美術を意識できる内容も多い。 ・道徳をはじめ「他教科とのつながり」にも記載があり、教科横断的な学習への配慮がある。 ・生徒の発達段階に合わせ、1年生は入りやすい内容になっている。ただ、1年生に比べ、2・3年生の表現活動が限られており、やや少ない印象がある。「旅の思い出」など疑問に感じるものもある。 ・「美しい」ということについて自然や人工の具体物から始まり、2・3年の巻末の現代アートで終わる形になっている。 ・鑑賞のポイントが絞られていて、話し合いの目的がはっきりするが、拡がりにくい面もある。 ・「作者の言葉」が載っており、作者の意図を理解し、美術の創造活動に対して意欲的に取り組む態度の育成に効果を感じる。 ・表現の手順がわかりやすくいていねいに説明されている。鑑賞から表現に移る流れもよい。 ・全体として、授業で使いやすいが、説明的で1年 P38,39 のように授業や制作の流れが限定的な傾向もある。 ・サイズは A4 ・和紙やトレーシングペーパーなど紙の材質にこだわった製本の工夫が見られる。
------------------	--------------------------	------------------------	---

<p>116 日 文</p>	<p>美術 703 美術 803 美術 804</p>	<p>美術 1 美術との出会い 美術 2・3 上 学びの実感と広がり 美術 2・3 下 学びの探求と未来</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「学びの目標」、「作者の言葉」、「造形的な視点」など、言葉で伝える工夫が多く見られる。特に「作者の言葉」は同世代の生徒の言葉であるため、対話的で通じやすい。作品制作の意図を知るうえでよい効果を生むと思われる。 ・1年 P26「鑑賞との出会い」は、鑑賞することの意味をていねいに伝えている。 ・すべての題材名がわかりやすく、興味を持って学習に取り組めるようになっている。小見出しや文章もよく吟味されている。 ・2・3年上 P6には、生徒の主体的な活動が反映されている。多様な感性を活かし、「主体的・対話的で深い学び」への工夫が見られる。 ・「表現・鑑賞」と「鑑賞」の標記があり、指導しやすい。 ・上 P32の伝統工芸のほか、P38など生活の中のデザイン、美術とのかかわりが掲載されている。 ・P36光が感情にもたらす効果など「共通事項」にも配慮されている。 ・屏風作品を折り曲げて鑑賞できるようにし、独自の表現形式を味わう工夫をしている。 ・「学びを支える資料」には、表現とリンクした技法や、安全に配慮した記載が見られる。 ・生徒の発達段階に合わせて系統的、発展的に構成されている。特に、1年の見開きからのガイダンス、「あなたらしさを見つけて」(P10)など、中学校の美術で何を学ぶのかがよく伝わる。 ・指導要領の「学年に適した内容」に着目し、上は2年、下は3年に適した内容になっている。 ・上 P40のSDGs、P41核兵器、P53と下 P24の震災、P26ゲルニカなど社会問題と美術とのつながりを幅広い視点で捉えている。 ・ゴッホの筆触や現代美術、浮世絵、ジャポニズムを通じて絵画表現の変化が説明されている。写真の発明との関連もわかりやすい。(上) ・下 P8自画像、ダリ、P14共同作品、P21モネ、ダビンチ、P32修復など視点が広い。 ・3冊構成で、全体にボリュームがあるが、学年で分けることができ使いやすい。 ・生徒の作品や活動の写真が多く使われている。親しみやすく、効果的である。アイデアスケッチなども参考になる。 ・サイズが変形(A4より大きい) ・道徳との関連が多くページに記載されている。教科書内で参照するページも示されている。
--------------------	-------------------------------------	--	--